

# AFPY だより

Adventure Friendship Program in Yamaguchi

第 2 号

H26.5.26

山口県教育庁 義務教育課

社会教育・文化財課

ファシリテーター  
とは

AFPY の実践において、子どもたちと直接かかわる先生方は「ファシリテーター」としての役割を担います。ファシリテーターは、指示や指導に偏るのではなく、「待ち」の姿勢を大切にしながら、子どもたち自身で考え、課題を解決することができるように環境を整えます。「自分たちで何とか解決してみよう」と子どもたちが主体的にチャレンジできるようにするための「支援者・促進者」と言えると思います。

学び合い、  
高め合う学校

新年度がスタートして、約2か月。なんとなくクラスメイトのことが見え始め、子どもたち同士、また、先生と子どもたちの関係が深まり始めた頃だと思います。もしかすると、“まだクラスの中で話をしたことがない人がある”という子どもたちもいるかもしれませんが…。

思いをすぐに言葉にする子もいれば、しっかり考えて話す子もいます。また、自分の意見を主張することが得意な子もいれば、苦手な子もいます。子どもたちのタイプは様々です。しかし、学校においてはいろいろな子どもたちが集まるからこそ、子どもたちは多様な考え方にふれ、時にぶつかり合いながらも多くのことを学んでいきます。

人と人とのかかわりを通して、共に学び合い、高め合うことができる場、それが学校です。その学校が、毎日楽しく、通いたくなる場でありたいという思いは、子どもたちも先生方も共通ではないでしょうか。

ファシリテーター  
としてのかかわりを

誰もが通いたくなる学校であるためには、子どもたちにとって心の居場所がある「安心・安全」な場づくりを常に心がけること、また、全員で共通の方向（学級目標等）をめざしていくことが大切だと考えます。

学校では、「廊下は走らずに歩く」「時間を守り、静かに集合する」など、ルールとして子どもたちに伝えなければならぬことが多くあります。しかし、授業や友達とのかかわりの場面などで、子どもたち自らが解決すべき課題がある時に、一方的な指示・指導ばかりでは、子どもたちは「話を聞く」「言われたようにする」ことに終始し、主体的な動きにはなりにくく、課題解決の力が高まらないことが考えられます。

先生が、その場その場で、ファシリテーターとしての役割を果たすことができれば、子どもたちは解決すべき課題を共有し、自ら「伝え合う」「学び合う」活動に取り組み、より主体的に課題解決に向かうことができます。課題が解決できた時の喜びも大きいと考えます。

次号では、ファシリテーターの役割等について考えていきます。

～AFPY の原点である、青少年自然体験活動「心の冒険・サマースクール」を今年度も開催します。

子どもたちのチャレンジを一緒に応援して下さる方を募集中!詳しくは社会教育・文化財課まで～

心の冒険 |

検索

学級がスタートして2か月。お互いの思いを大切にしていますか？

《ねらい》自分の思いを伝えるとき、また相手の思いを受け止めるときに大切にしたいことについて考える

### 『オールキャッチ』

教科・領域	特別活動(学級活動)	時間	45分程度
準備物	ボール(軟式テニスボールのような、やわらかいもの)		
活動の実際 ※留意点	<p>《室内でも実施可》</p> <p>①一人ずつボールを持ち、二人組になってキャッチボールをする。 ※交互に投げるだけでなく、二人が同時に投げるなど、投げ方を変えながら楽しい雰囲気を作る。</p> <p>②四人組になり、キャッチボールをする。 ※ボールの数を変えたり、パスをする相手を決めずに四人が同時に投げたりするなど投げ方を変えながら実施してみる。人数を変えて挑戦したことによる感じ方のちがいを、グループ内で紹介し合う。</p> <p>③学級全員で「オールキャッチ」を行う。 ※学級全員で一つの円になり、真ん中にボールを受け取る人を3～4人入れる。周囲の人が真ん中に向かって一斉にボールを投げる。ボールを何個取れるかの目標設定や目標達成のための作戦会議を行うように促す。</p> <p>④今日の体験をふりかえり、感想を紹介し合う。</p>		
ふりかえり	<p>○ボールを受け止めるときや投げるとき、どんなことを感じた?考えた?</p> <p>○例えば、今日使ったこのボールが、みんながクラスや仲間のために大切にしている「思い」だとしたら、どんなことを感じる?</p>		
継続的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の思いを受け止める時には「真正面に向き合う」「相手をしっかり見る、しっかり受け止める、相手の思いを感じる」といったことを大切にしようという約束事が生まれた。</li> <li>この約束事を掲示し、生活場面だけでなく学習場面においても、ことあるごとに約束事に立ち戻るようにした。</li> </ul>		
子どもたちの感想や変容、等	<p>・ふりかえりでは、「複数のボールを同時に受け取ろうとすることは難しい」「作戦会議で自分の思いを伝えようと思うと必死になる」といった声が聞かれ、思いを伝えたり受け止めたりする時に大切にしたいことを考えるきっかけとなった。活動後も約束事に立ち戻ることで、友達の言葉・思いを大切にしようとするようになった。</p>		
実践者からのひとこと	<p>言語活動の充実を目指すために、あたたかな学級風土を作ることが大切であると考えています。自分の意見について「そうだよね」と相手に受け止めてもらえたとき、「なるほど」と共感してもらえたときは心から嬉しいものです。だからこそ、伝えよう、受け止めようとする気持ちを子どもたちがもつことが大切となります。また、私たち教師も子どもたちの思いを受け止める存在となることで、子どもたちは安心して活動できると思います。そのためにも、教師は子どもたちに寄り添い、小さなつぶやきにも耳を傾けることが必要であると日々の実践から感じています。</p>		

(下関市教育委員会豊浦教育支所 塚本美穂 派遣社会教育主事による実践)

